

2016年 漢城大学サマープログラム 報告書

北海道教育大学函館校 国際地域学科 地域協働専攻
国際協働グループ 4071 小原晴夏

1 はじめに

今回私は、2016年8月17日から8月30日までの2週間、漢城大学でのサマープログラムに参加しました。参加学生は中国人学生14人、日本人学生12人(北海道教育大学函館校5人、北海道教育大学岩見沢校2人、京都府立大学3人、九州工業大学2人)でした。これほどの大人数での参加は今回が初めてとのことでした。1日の流れとしては、午前が講義、午後から文化体験や建物見学、という内容でした。また夕方までには全てのスケジュールが終了するため、そこから門限の11時までは各自で自由時間として過ごしました。

2 授業

午前中の講義は、韓国に在住の日本人、土井美穂先生が日本語でおこなってくださいました。韓国語の授業では、ハングルの読み書きを一から教えてくださいました。参加したメンバーのほとんどが韓国語に触れることが初めてだったため、土井先生の指導の下、読み書きのルールを覚えていくところからのスタートとなりました。会話の練習では、実際に漢城大学の生徒さんが目の前で発音して、口の動きや息の使い方など、日本人の私たちが慣れない韓国語の理解が少しでも深まるようにと、手助けしててくださいました。そのかいあって、後半の授業では、文章を自分たちで読み、先生と簡単な会話ができるころまで成長しました。

また、言語の授業が終わると文化や歴史、簡単な地理など韓国という国の理解のために必要な知識を学ぶ講義の時間でした。中でも私が興味を持ったのは、言語意識と言語行動の日韓比較というテーマでした。似ていると良く言われる日本と韓国ですが、その国民性は全く違うと言われていています。似ていると言われているから、何も聞かずに行動しては、それぞれの国の失礼な行動や発言に繋がってしまう恐れもあります。似ていても背負う文化は違うのだという視点から、言語の比較をすることで、より日本と韓国それぞれの国への理解が深まるということでした。私事ですが、教育大函館校で日本語教員プログラムを受講しているため、その学びにもつながる部分があり、とても興味深い内容でした。

3 文化体験

午前の講義が終わると、午後からはバスに乗って文化体験の場所へ向かいます。この報告書には書ききれないほどの様々な場所へ行きました。景福宮での韓服チマ・チョゴリの体験、韓国民族村、ソウルタワー、NANTA 観劇と体験、料理体験、ロッテワールド、広蔵市場、DMZ(非武装地帯)など様々な体験をして、思い出になる場所を巡りました。中でも

NANTA 体験とラフティングは本当に楽しく、感動しました。NANTA とは韓国の伝統的なリズムを取り入れた、キッチンで起こる出来事をコミカルなミュージカルにした非言語公演のことです。観劇した2日後に、劇中の伝統的なリズムを太鼓とバチのようなもので演奏し体験しました。先生がお手本を見せてくださり、真似をすることで少しずつできるようになっていく過程が楽しく、最後には一つの流れのパフォーマンスを完成させることができました。そしてラフティングでは、大自然の中をゴムボートに乗り、溪流下りをしました。日本人、韓国人、中国人みんなで掛け声を出しながらゴールを目指し、途中でゲームも交えて笑いが絶えない時間でした。自然のパワーを全身で感じました。

4 韓国での生活

ソウル市内の気温はとても高く、北海道より本当に暑いですが、しかし、講義室やバス、電車などはとても涼しく、寒いと感じることもあるため寒暖差によって体調を崩さないように注意が必要です。あらかじめパーカーなどを持っていくといいと思います。私たちが過ごした漢城大学近くは、少し歩いたところにコンビニやスーパー、カフェなどがあり、とても生活しやすい環境でした。また、交通面では地下鉄が利用しやすい位置にあり、1日のスケジュールが終わった後は門限までの自由時間に、よく地下鉄に乗ってみんなで様々な場所へ行きました。初めての地下鉄でしたが全ての駅に番号が書いてあり、乗り換えの表示も丁寧に書いてあるので、文字が読めなくても、目的地にたどり着くことができました。宿泊したゲストハウスは、クーラーや洗濯機、電子レンジ、冷蔵庫などがあり生活していくうえで困ることはありませんでした。しかし、キッチンには調理器具がないので、夜のうちに朝食を買っておくといいと思います。コンセントですが、韓国で使えるタイプの物、または海外で使えるものを用意した方がいいです。そして Wi-Fi ですが海外用のポケットタイプの物を用意するといいと思います。フリーWi-Fi やゲストハウスに設置されている物もありますが、常にどんな状況でも使えるわけではないため必要です。街に出て、目的地を探したり、言葉が通じずに困った時のために用意するといいと思います。

2週間、日本と違う文化での生活が困らないようにと土井先生や、漢城大学のサマープログラム担当のチェ・ミニ先生がたくさん気を使ってくださいました。最初は少しだけ戸惑ったりしましたが、どんな時も周りの方が助けてくださったおかげで快適に過ごすことができました。

5 最後に

今回、私自身初めての海外で不安が多い中での参加でした。しかし、現地に到着してすぐにその不安はなくなりました。漢城大学の先生方やいつも私たちを助けてくれて、一生の友達となったバディの学生さんのおかげで本当に楽しい刺激の多い毎日を送ることができました。2週間、自分から動くこと、わからなかったら質問することを自己目標として過ごしましたが、自分なりにですが達成できたと思います。もしも、興味はあるけれど、

手続きや海外へ行くことへの不安があるという場合は、学務の方や過去のプログラム参加者に気軽に聞いてみることで解決できることもあるはずです。私もそのやり方で情報収集しました。自分を変えたい、一生の記憶に残る夏を過ごしたいと思ったらこのサマープログラムに参加することをお勧めします。たくさんの方々の助けがあって、今回のサマープログラムに参加できたことに心から感謝します。ありがとうございました。



← 韓服体験の様子
日本人チーム全員で記念撮影



↑ 仲良くなったバディの
イ・ジェヨンさん



← 朝鮮時代の伝統婚礼